

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000638		
法人名	有限会社 木犀		
事業所名	グループホーム遊友		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1832-1		
自己評価作成日	平成28年9月8日	評価結果市町村受理日	平成28年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が仲良く楽しく、1日1日を過ごして日々を重ねてほしい。1人1人にはとても貴重な1日であるとの自覚は恐らくない。未来に続く「ある1日」でしかないだろう。しかし、元入居者の計報を聞くと、少なくとも私たちは充実した1日であったと思えるように頑張るべきだろう。足りないことがたくさんありますが、一生懸命やっている姿を通して利用者に伝えたい。「…見てください。今日もありがとう。」職員で「今日はありがとうございました。」と一人一人に挨拶して帰る人がいる。そんな姿があつてこんなことを書いてみました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは環境に恵まれた閑静な住宅街の中にある。利用者はウッドデッキを備えた木造りの温もりのある建物の中で職員と一緒にゆったりと生活している。毎年12月には近隣の住民を招いて庭先やウッドデッキを利用して餅つきを行い、利用者の家族を含めて地域との交流を深めている。また、利用者に尊敬ある楽しい生活を送ってもらえるよう、職員一人ひとりが毎月接遇目標を掲げ、自己評価を行い、利用者に対する心のこもったケアの実践につなげるよう努めている。利用者の高齢化が進んでいるが、職員は温かいケアを心掛け、利用者が日々穏やかに暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1つは、「遊友の日々」で理念の共有が進むことを願っています。	職員は、理念を基に接遇目標を掲げ、自己評価を毎月行い、実践につなげる取組を行っている。また、全職員が共有し、実践可能な理念の作成を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流している。というのは地区費も払い、地区の一員として受け入れていただいている。	代表者とホームが共に自治会に加入し、地域の一員として交流を図っている。また、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、毎年12月には餅つきをして近隣住民を招くなど、地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員に公民館長になっていただき館長を通して理解の輪を広げていただいている。また、餅つき会には地区の人、近隣の人たちを招待している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回、開催しているいろんな助言を頂いている。通算60回を迎え10年以上続けてきていることに感慨を覚える。私たちの苦しみを理解していただいていることに大変救われている。	会議では利用者一人ひとりの生活状態の報告や地震発生時の対応等についての意見交換や助言がなされ、双方向的な会議となっている。出された意見や提案をサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町に出向くことは必要な時以外はないが、とても忙しくされているようで、気の毒な気もする。ホーム長として町が催す会には積極的に参加してみんなでやっていく感じができています。	町の担当者とは、ホームの運営や課題についての相談や指導を受けるなど、協力関係を築いている。また、町が主催する研修会や行事に積極的に参加して協働している。運営推進会議にも担当者が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	このことは以前から取り組んできている。ベッドの4点柵、車椅子のベルト、部屋の鍵等職員には説明をしている。	全職員が内・外の研修に参加して、身体拘束の弊害について学び、理解を深め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関や居室には施錠はしていないが、外の門については、警察の指導もあり施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については十分気を付けている。職員からの虐待は厳しく戒めているが、スタッフの方が叩かれたり、言葉の暴力を受けたりしている。これが起因となって、虐待にならぬよう注意したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度をお一人だけ利用されているが、制度の利用の難しさが分かってか、広がってはいないようである。ホームとしてはありがたい制度だと認識しているので支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については説明と重要事項説明書を提示し説明後署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前に利用者の母親が写真は撮ってくれるなとくぎを刺されたので、一切写真撮影をやめたときがあった。外部者へ意見、要望を表せる機会を設けてはいない。運営推進会議のメンバーに入っていたはいるが・・・。	家族の来訪時やホームの行事開催時を利用して、意見や要望を引き出す努力をしている。運営推進会議に家族の代表が出席し、意見を述べる機会がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会を開いている。2時間ではあるが・・・。その際、「モニタリング」と「遊友の日々」を提出してもらっている。	毎月の職員会議やミーティングで、職員の提案や意見を聞く機会を設けている。会議では勤務時間帯の変更や接遇についての意見交換等がなされ、それらを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「遊友の日々」ということで1ヶ月を自己評価してもらっている。モニタリングの提出などで、職員の個々の努力を見ている。希望休を受け入れ、働き易くしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	モニタリングを毎月提出と職員会の司会と書記をローテーションでやってもらっている。研修も職員会でやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のメンバーで年に3回の研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	とにかく、新しい環境に慣れていただくために、利用者本人との対話を心がけている。2時間くらいは毎日話を聞くつもりで対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の生活も重要なポイントと心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望を聞きそれにこたえられるか判断する。御本人の意思に沿うときばかりでもない。見極めという言葉は適切とは言えない。今取りうるベストの選択をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす。みんなで楽しく過ごせることが一番である。食事はお昼のご飯だけでも同じものを食べることにしている。食事のあとの片付けなどは一緒にやっていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけホームに来ていただいてコミュニケーションをとるようにしている。一方、まったく寄り付かない家族もある。しかも増えているような気がする。今後の課題だ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室、病院、などは出来るだけこれまでの関係を維持していただいている。	家族の協力を得て、なじみの美容室や買物に出掛けることがある。遠方の家族には電話をしたり、手紙を出すなど、なじみの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士は出来るだけ近くに、気の合わない人は別な人と組み合わせて、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係は断ち切らないでいるが、ホームを出ると、病院で亡くなることが多い。もちろん相談・支援にも応じている。亡くなくても数年連絡が続いたケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネだけでなく職員もモニタリングの中で気づいたことを上げてくるが、出来るだけ本人の意向に沿うように努力している。	利用者一人ひとりの健康状態や満足度、課題等について、全職員で毎月モニタリングを行い、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集し、参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護に必要な情報は、最初から十分取れてはいないことがある。これまでの生活歴等はとても重要であるから、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状把握に努めている。記録も付けている。スタッフやケアマネなど情報の交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは月ごとに交代でスタッフに記録させている。ケアマネはそれも読み家族や本人と会話して、モニタリングしてケアプランを作成していく。	全職員でモニタリングを毎月行い、本人や家族、関係者の意向や要望を取り入れ、利用者本位の介護計画を作成している。状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個人別で毎日記録している。介護日誌は毎日の全員の様子を記録している。睡眠や排泄・水分摂取状況などは別紙に一覧表を作成している。これを職員間で共有している。これもケアプランに生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	忙しい家族の要望に応じて、通院付き添いが増えてきている。9名中6名は当ホームで行っている。買い物にも行っている。認知症専門の医師に診ていただくため支援をしている。		

宮崎県高鍋町 グループホーム遊友

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容師、マッサージ師、リハビリ師他近所のお年寄りなどに支えられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もはや、積極的に行わざるを得ない状況である。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。職員が付き添う場合が多いが、家族が付き添う時には、口頭でホームの状況を伝え、連携をとっている。急変時や夜間の受診が得られる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない。訪問看護ステーションも考えたが何か足りないものを感じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは連絡を取り合うようにしている。退院後戻ってくる人は多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の終末期のあり方は、ご本人が介助でも食べる事が出来なくなった時は病院に移っていただいている。現在は看取りは行わないし、行えない。家族には了承済みである。	重度化した場合の対応については、利用開始時にホームで対応できること、できないことを本人や家族に十分説明し、同意を得ている。現在の体制では看取りは厳しい状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や怪我が想定されるが、ベテランのスタッフに頼っている現状である。研修をする予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	これまで災害に見舞われていませんので、訓練はしていますが、地域との協力体制を築くとは言いえない。近所より少し高いところもあること、情報も入りやすいと考えている人もいます。大地震や津波の時は各自まず自分の身を守るように指導している。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を定期的に行っているが、地域との協力体制が構築されていない。非常用の備蓄はなされていない。	特に夜間の災害発生時は、職員だけの対応では限界があるので、避難訓練に地域住民の参加を呼びかけ、地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本なので、徹底しているつもりである。入居が長くなってくると、お互いの慣れが怖いなど思っている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者に対する態度や言葉遣い、声かけ等について毎月自己評価を行い、ケアの向上に努めている。特にトイレの誘導や居室の出入りには細心の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	拒否はされるといやであるが、見方を変えると意思の表示であるから、喜ばしいともいえる。スタッフに受け入れの態勢を整えるように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に職員の都合を優先しないように指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選んでもらうのが基本であるが、判らなくなった人には、尊厳の見地からも身だしなみを考えて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をすることが減ってきているが、食事の片付けは毎日一緒にしていただいている。	食事介助を必要とする利用者もいるが、職員が介助をしながら同じテーブルを囲んで会話をしながら楽しい食事となるよう支援している。食事の準備や後片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べた量や水分摂取量は毎日表に記入してチェックしている。栄養バランスは100%とはいかないが、これまでの献立の蓄積から大体良いのではないかと？		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	屋間はなるべく綿のパンツにしている利用者もいるが、化繊のリハビリパンツよりも体に良いのではとの配慮からで、排泄の自立としてはトイレに行っていたらいい。	排せつチェック表を活用して利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。おむつを減らす取組も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘と認知症の関係は理解している。年齢と薬から便秘は避けられないところがあり薬が出ている方が多い。繊維質、水分を取ることそして動くことなど気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきに入っていたらいい。御本人の都合で入りたくない時もある。次の日に誘うことになる。空いた日には連日入浴になる人も出てくる。安全に楽しくを心掛けている。	入浴は基本的には一日おきとしているが、希望があればいつでも入浴できるよう柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、タイミングに合わせて声をかけるなど、工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋があり個室であるから1人になりたい時、休息したい時は部屋で休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いがないように服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の役割や好きなことが分かってきているので張り合いや、喜びを感じながら過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今のところ地域住民も認知症サポーターもいないのでスタッフで対応している。家族もよくお世話されるところもある。	利用者の希望に沿って、少人数に分けてドライブをしている。職員と一緒に買物等に出掛けることはあるが、日常的な散歩や花見、見学等、利用者の要望に十分対応しているとはいえない。	ボランティアや家族の協力を得て、日常的な散歩や花見等、戸外に多く出掛けられるよう支援することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの人がお金を所持したいとは言われない。しかし、買い物などスタッフが一緒に行って買うことはある。家族がよく差し入れをされる場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける人は暑中見舞いや手紙を書いていただくこともある。電話は受け継ぐことが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	良く考えて作ったつもりである。不平や不満は聞いていない。	風通しがよく、採光や温・湿度等に配慮が行き届いている。リビングに続くウッドデッキにテーブルや椅子を置き、利用者がゆったりと過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前から大きさの異なる4個のテーブルを配して気の合う人同士で座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の思いがこもった部屋、お年寄り自らは飾らないようである。つましく質素な感じが多い。居心地の良さはそんな中にあるのかもしれない。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。比較的持ち込みは少ないが、手作りの人形や仏壇、写真等が持ち込まれ、安心して生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所が分かるように大きく表示している。		